

2012年11月27日

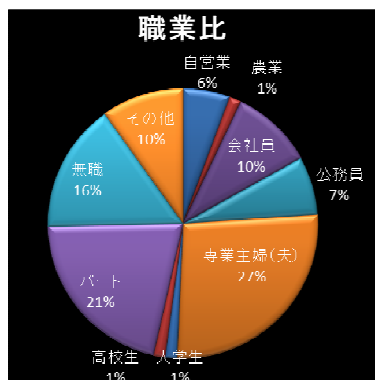
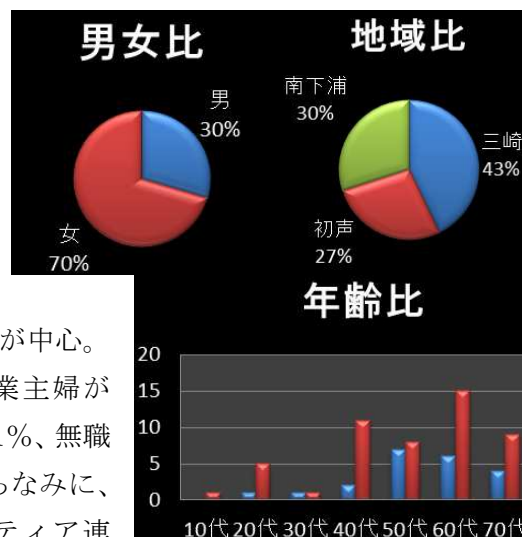
現在、三浦市民生活向上会議ボランティア活動推進部会では、ボランティア(市民活動)の振興策として①ヒト(人材育成)②モノ(施設・設備、活動場所)③カネ(活動資金)④情報(収集発信)⑤ボランティアセンターの充実—の5つの柱を想定している。そこで、この想定が、有効であるか否かを実証的に明らかにするためにアンケート調査を実施することとなった。

アンケート用紙原案を作成した事務局では、被調査者の負担感を減らせるよう、おおよそ10分程度で回答ができ、かつ、興味を引く工夫として「漫画」によるアンケート用紙を試作した。主人公である「ボラ君」の様々な経験を通して、社会問題を発見し、これに関与する様が一種の成長物語として語られていく。それを被調査者が追体験することによって「アンケートに回答する」ようになっているわけだ。なお、調査用紙(調査票)は①未活動経験者用と②活動経験者用に分け、それぞれに「属性(プロフィール)」と「設問」を設けている。

なお、本報告書の被調査者は三浦市民である。中でも、調査用紙②の対象となる活動経験者である。

1 基本的属性

男女比は女性70%、男性30%と、女性が多い。地域比は三崎在住者が最も多く、南下浦→初声と続いた。

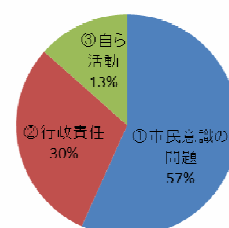


年齢比は、40代から70代が中心。職業比は、専業主婦が27%、パート21%、無職16%と続く。ちなみに、三浦市ボランティア連絡協議会(通称「ボラ協」)についても専業主婦→パート→無職の順番に多い。ボランティアに参加しやすい職業の傾向が見える。

問1 社会問題に対する考え方(設問数:1)

この設問の狙いは、地域の課題に対する意識の持ち方が、経験者と未経験者の間で異なるのかを把握することである。本設問において我々は、未経験者に比べると、「自ら活動する」人が多いのではないかと—という仮説を立てている。何らかの課題を発見したとき、これまでの経験から、課題の解決に向けて実際に行動に移す人が、未経験者よりも多いと考えたからである。

設問1—社会問題に対する考え方



結果、①市民一人ひとりの意識の問題との回答が最も多く、約6割を占めた。続いて②「行政責任」、③「自ら活動する」という順番になった。この順番は今までアンケートをとってきた経験者・未経験者の回答と同じである。

経験者からすると、自ら解決する・あるいは行政に整備を求めるといよりは、その多くが住民の責任感に基づく問題であり、その意識から根本的に変えていかなければ解決できない問題であるという判断に至ったのかもしれない。

問2 「人材育成」について（設問数：3）

ボランティア関連講座の受講経験の有無と、「受講経験者」に「講座が実際の活動に結び付いたか」を尋ねた。狙いは、講座の受講率と活動を始める「きっかけ」として、それが有効なのかどうかを知ることにある。

本設問において我々は、講座は実際の活動に少なからず貢献するものの、実際に受けたことがある人は少ないのではないか— という仮説を立てた。

結果は、受講経験者は約4割であった。ちなみに市民の未経験者は、1割に満たなかった。一方ボラ協は受講経験者が約6割に上った。ボラ協の回答者は全員、現役でボランティア活動を行っている人である。今までボランティア活動をしたことがある回答者も含まれている、ボラ協以外の総意と比べると、ボランティアに対する興味・探究心が強いのではないだろうか。また、ボラ協独自に講座を開くこと要因の1つだろう。

講座が実際の活動に結びついたかという設問については、「結びついた」が83%に上った。他の回答傾向と同様、経験者にとって講座の受講は、実際の活動に結びつきやすいということが分かった。

なお、本設問において、今後受けてみたい講座についても尋ね、講座を企画するにあたり具体的なニーズを探ろうとした。

結果、86%が無回答。それ以外の興味もばらけたため、人気があるジャンルや具体的な興味は掴めなかった。

「受けたい講座」の結果。それぞれ1票ずつ入った。

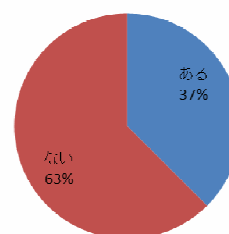
- ・手話・災害援護・心理・ヘルパー・市で必要とされるボランティアについて
- ・安全マップ・NPO マネジメント・傾聴・障害者・スポーツ指導

ボランティア活動をしたことがある市民にとって「講座」とはどのようなものなのだろうか。学ぶよりも実践に時間を割きたいと思うのだろうか。あるいは、活動にレベルアップを望んでいない。現在の活動状況に満足しているということなのだろうか。

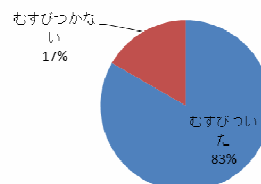
無理なくボランティア活動を続けて貰えることはよいことである。しかしながら、講座自体は、受けると実践に繋がることは証明されたので、今後も講座についてはおろそかにできない。

そして、市民とボラ協で受けたことがある割合に差が出た理由には、情報が届いているか否か、ということもあるだろう。連絡網があるボラ協に比べると、一般市民は市内で行

設問2-講座の受講経験



設問2-2
講座が活動に結び付いたか



2012年11月27日

われている講座の情報は届きにくいと考える。情報が届いてから初めて「受りたい!」と思って貰えるかもしれないので、講座を開催する際にはその情報を広めることが大切であると考えます。

また、ボラ協回答者の受講経験の多さ・講座が活動に結びつくと答える人の多さから、ボラ協の人々が受ける講座の有効性が読み取れた。今後、ボラ協が主体的に行う講座を、ボラ協内だけで完結させるのではなく、今よりも市民に開かれた講座にする手伝いが必要になるのではないかと考えます。

また、ボランティアをして欲しいと望む側のニーズを汲んだ、ボランティア養成講座を開催することも必要ではないかと考えます。

問3 「モノ・場所」について(設問数:2)

本設問では、活動をする上で、「全市的な活動場所」「身近な活動場所」「備品・設備」の中から、最も必要な物的資源は何かを尋ねた。また、活動場所の使用料についても尋ねた。

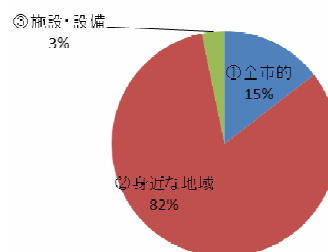
狙いは、今後社協が意識して充実を目指していくべきモノ・場所は何なのかを知ることにある。また、そのモノ・場所に行くまでにお金を出せるかを知ることによって、より効率的に整備を進めたいと考えた。整備をしても結果的に使っていないということを防ぐためである。

我々は本設問において、「身近な活動場所」が最も必要。近所に無料で気軽に借りられる活動拠点が欲しい— という回答が多いのではないかと仮説を立てていた。

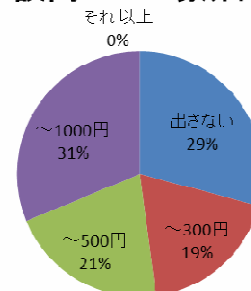
結果、予想通り8割以上の方が「身近な活動場所」と回答。これは活動経験者全体の意見と同じである。近所の活動拠点が欠かせないということが分かった。

また、場所代をいくらまで負担できるかという質問については、出たくない人は29%である一方で、1000円まで出している人が31%と、意見が分かれた。支払意思額は335円となった。

設問3 必要なモノ・場所



設問3-2 場所代



問4 「活動資金」について(設問数:2)

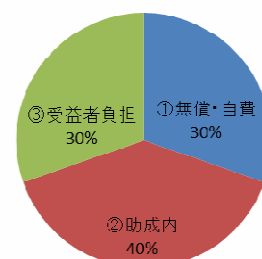
ボランティア活動におけるお金のあり方について尋ねた。本設問の狙いは、市民はどの程度まで金銭を負担できるのか。その金銭感覚は、経験者と未経験者で異なるのかを探ることにある。

また、市や社協にどの程度自分たちの頑張りを評価して欲しいと思っているのかも知りたい。

我々は、無償・自費で活動したいとする人は少なく、市や社協の助成内で活動したい人が多く、場所代よりも、活動費用の方が負担できる額が高くなるのではないかと仮説を立てていた。

また、受益者負担と考える人はとても少なく、未経験者

設問4 活動資金の出処



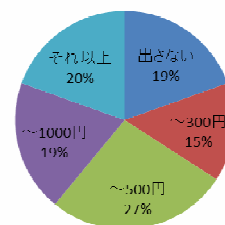
2012年11月27日

の方が無償・自費で行うものであると考え、定期的に活動を行う者は、ボランティアをある種の「委託事業」のように捉えているのではないかと考えていた。

結果は答えが分散し、「市や社協の助成内」で行いたい人が4割、次いで「無償・自費」・「受益者負担」がそれぞれ3割となった。活動負担額については、支払意思額は489円になった。

他(社協職員、市職員、ボラ協)同様、「ある程度受益者にも負担をして貰うべき」という回答が少なくなかった。活動ごとに活動資金や活動の対価を得たい対象が異なるということが分かった。「対象が異なる」ということは、活動によって社協の(金銭的)支援のあり方も異なってくるということであろう。社協からの金銭的支援が必要なのか否かを知り、適した支援をしていくべきである。

設問4-2 活動負担額



問5 「情報」について(設問数: 2)

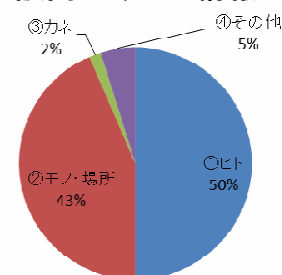
本設問の狙いは、ボランティア活動を実践する人にとっての最も得たい情報を、最も伝わりやすい媒体で広められるようにすることである。ここで我々は、得たい情報は活動内容によって異なるので、バランスよく分かれるのではないかと—という仮説を立てた。

結果、社協職員・ボラ協同様、①ヒトと②モノ・場所に意見が集中した。講座などの情報と、使える施設・設備の情報が重視されているようだ。

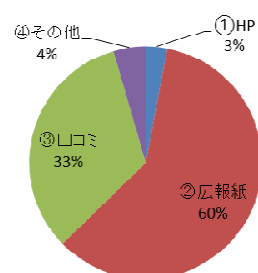
次に、普段ボランティアに関する情報を何で得ているかについて尋ねた。ここでの仮説は、実際に活動に結び付いている人は、口コミで情報を得ている人が多い—というものである。インターネットについては、つい最近三浦市社協HPで市内のボランティア活動について掲載するようになったが、他の市(例えば横浜市など)と比べると、単発のボランティアや、福祉系以外のボランティアなどの情報が少ない。年代・性別によっては(他市の情報などを)目にする機会も多いかもしれないが、何となく尻込みしてしまい、活動の実施には漕ぎ着けにくいと考える。

また、活動を始めるきっかけとして、「①友人・知人の誘い」が多いと予想している。そのまま友人・知人から情報を得て、一緒に行くことが多いのではないかと。

設問5 欲しい情報



設問5-2 情報媒体



結果、広報紙が6割を占めた。「③口コミ」は33%。設問7では、やはり「①友人・知人の誘い」が65%と多く、それ以外の回答はばらけた。社協経験者やボラ協同様、活動の2回目以降については、地元の広報紙で身近な地域の活動を探して、自力で参加に至る人が多いということだろう。

今後の社協の仕事としては、HPの充実とその効果の測定に力を入れるとともに、今後も広報紙「社協みうら」の紙媒体の情報もおろそかにしないようにしたい。

問6 最も大切な「ボランティア振興策」とは(設問数: 1)

今までに尋ねてきた「①ヒト(人材育成)」「②モノ・場所」「③カネ(活動資金)」「④情

2012年11月27日

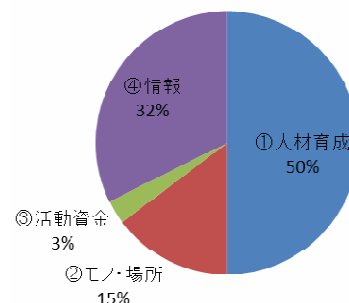
報」の中で、今最も充実させるべきはどれなのかを問うた。狙いは、計画での実行の優先順位を考えることにある。ここでの仮説は、「②場所」「③カネ」の順位が高い。「④情報」の潜在的ニーズは高いが、充実したことによる利益が想像し辛く、結果にはあまり響かないというものであった。

設問6 ボラ振興策

結果、「①ヒト(人材育成)」が半数を占めた。続いて「④情報」が32%、「②モノ・場所」が15%という結果。

他同様「ヒト(人材育成)」が多く、効果が目に見える程に人材を排出すべきであることが分かった。

一方、他に比べて、「④情報」を選ぶ人が多かった。市役所には市内のイベントやサークルなどの掲示物などがある。その中にはボランティアに関する掲示物もあるだろう。そのため市職員・常日頃ボランティアを行っているボラ協などと比べると、ボランティアに関する情報に触れる機会が少ないのかもしれない。1番目に入りやすい広報誌から、市民に届く情報量を増やしていきたい。



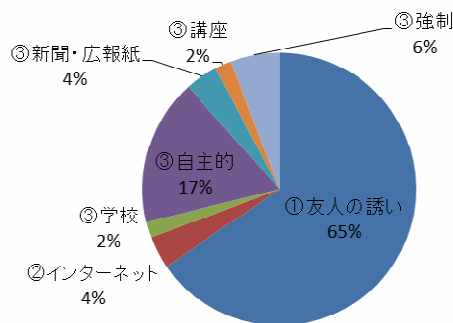
問7 きっかけについて(設問数: 1)

ボランティア活動を始めたきっかけについて尋ねた。狙いは、実際に活動をしている人がどうやって活動を始めたのかを知ることで、未経験者をどのように活動へ誘うのが有効なのかを探ることができるのではないかと考えた。

ここでは「①友人・知人に誘われて」とする回答が最も多いのではないか—という仮説を立てた。何かを始めるときには、誰かに「大丈夫」と背中を押して貰わないと踏み出しにくいのではないか。若い年代であれば、授業の一環などで強制的に始める人が多くなる。

結果、予想通り「①友人・知人の誘い」が最も多く65%で、続いて「自主的に始めた」という意見が17%。それ以外の意見はばらけた。やはり始めるきっかけとしては、興味を抱いている未経験者が、①経験者に会って「やってみない?」と誘われること、②潜在的に興味を抱いている人同士が会って、「一緒にやってみよう」となること—など、人に結び付くことが、実際の活動に踏み出しやすくなるきっかけになることが考えられる。

設問7 始めたきっかけ



問8 やめた理由について(設問数: 1)

以前やっていたボランティア活動をやめた理由を尋ねた。狙いは、どのような状況であれば、活動を続けられるのかを知り、ボランティアの需給調整に役立てることにある。ここでの仮説は、アンケートに答えられる人の中となると、「①忙しい・暇がない」が多いというものである。潜在的には、高齢になっても長く活動を続けている人をよく目にしており、市内の高齢化率も29.89%(H24年6月1日現在)と高いため、「⑤健康を害した・高齢になった」人も多いのではないか。また、「③つまらなかった」「④人間関係のもつれ」も、答えにくい但实际上にはよくあるのではないか。

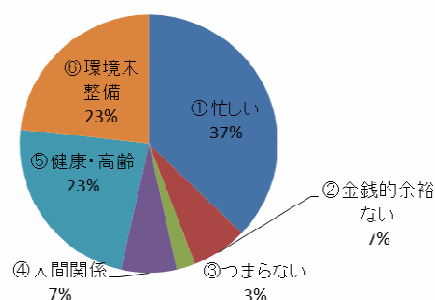
2012年11月27日

結果、「①忙しい」が37%で最も多く、「⑤健康を害した・高齢になった」「⑥三浦市にはボランティアをする環境が整っていない」が23%と続く。「④人間関係のもつれ」は「②金銭的余裕なし」と同率で7%。

他同様、「①忙しい」が最も多く、やはり時間に余裕がない人にとって、継続的な参加は難しいようである。しかしながら、忙しくなり一度はボランティア活動から退いた人であっても、再び時間に余裕ができれば、またボランティア活動をしてもらえる可能性がある。そのため、若い人々への情報提供もおさなりにしてはならないだろう。

なお、ボラ協と市民の経験者については、「⑥ボランティア環境の未整備」の意見が多い。地域に根ざした活動を主に行っている人々にとっては、三浦市内でのボランティアはやりにくいものなのだろう。計画を立て、早急に整備を進めていくべきであると感じた。

設問8 やめた理由



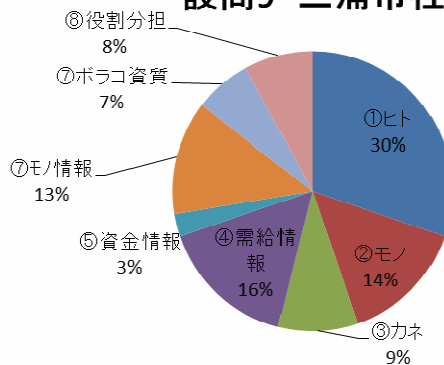
問9 社協に望むこと(設問数: 2)

ボランティアセンター(三浦市社協)に最も力を入れて欲しいことは何なのかを尋ねた。

狙いは、情報、ヒト、モノ、カネ、ボランティアセンターという、計画の柱に据えたいと考えている機能が、市民にとって本当に必要とされているのかを知りたいというもの。

また、計画における実行の優先順位をつけたい。仮説は、「③カネ」か「④情報(人材需給調整)」が多く、市(問10)とは何となく異なる分布になるというもの。普段のボランティア活動において、「市」と「社協」の違いを意識する機会がないので、今必要であると考えている(市や社協など)他からの支援の中の、ベスト1と2を両者に振り分けようとするのではないか。

設問9 三浦市社協に望むこと



結果、「①ヒト(各種講座の開催など、人材育成)」と答えた人が30%で最も多かった。そして「④ボランティアの需給調整に関する情報」「②施設設備・活動場所の提供」と続いた。「①ヒト(人材育成)」が最も多いのは、社協職員・市民経験者と同じ結果であり、最も求められていることが分かる。

「④需給調整の情報」については、市職員・社協経験者でも票を集めている。特定の団体で活動をしていない人にとっては、いつどこでボランティアの手が求められているか情報を得ることは難しいことなのだろう。

「②施設設備・活動場所の提供」と「⑥施設設備・活動場所の情報」についても、市職員・社協経験者から票を集めている。これも、定まった場所で活動をしていない人々にとっては、知らなければ「ない」ものなのだろう。

一方、全てにおいて低かったのが、「⑤活動資金の情報」である。これと「③活動助成と民間資金情報の提供」は似た項目であり、市職員・社協経験者でも票は少なかった(が、③はボラ協において4番目に票が集まった)。

2012年11月27日

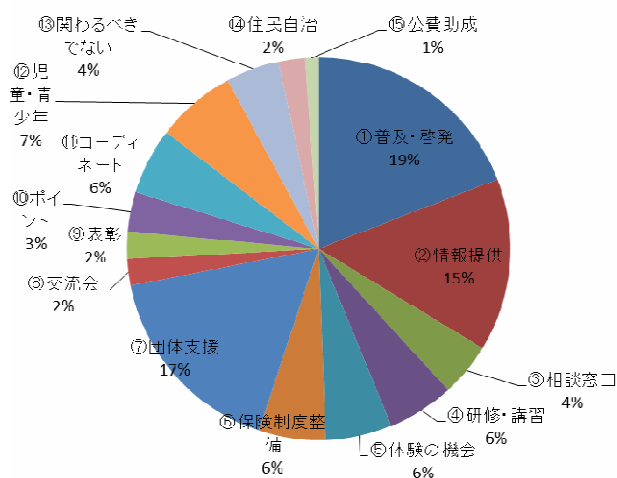
団体と個人では「活動助成」についての認識が異なるのだろうが、全体的に「カネ」以外への支援を重視していることが分かった。

問10 市役所に望むこと(設問数: 1)

狙いは、市民が(何となく)抱く「市が担うべき役割」が何かを知り、三浦市社協との役割分担を考えることにある。ここでの仮説は、「①市民への普及・啓発」「⑦ボランティア団体への支援(活動場所の整備や活動資金の補助等)」が多いというもの。耳なじみの薄い「社協」よりは、「公」の方に、人手不足解消のための広い範囲への呼びかけをして欲しいと思うのではないだろうか。

結果は、「①市民への普及・啓発」19%が最も多く、「⑦ボランティア団体への支援」17%「②ボランティア活動の情報提供」15%と続いた。それ以外は意見がばらけた。市民へ広くきっかけづくりを行うことが重視されている。「⑦ボランティア団体への支援」とは、様々な選択肢を包含した回答である。ボランティア団体も、具体的に自分たちに何をしたいか?と聞かれると、「して貰えることは何だってして欲しい」と思うのが筋だろう。計画策定にあたって、実施する支援の優先順位については、この設問で多かった「市民への啓発」や、他の設問からも重要性が読み取れた「情報提供」を重視していきたい。

設問10 三浦市役所に望むこと

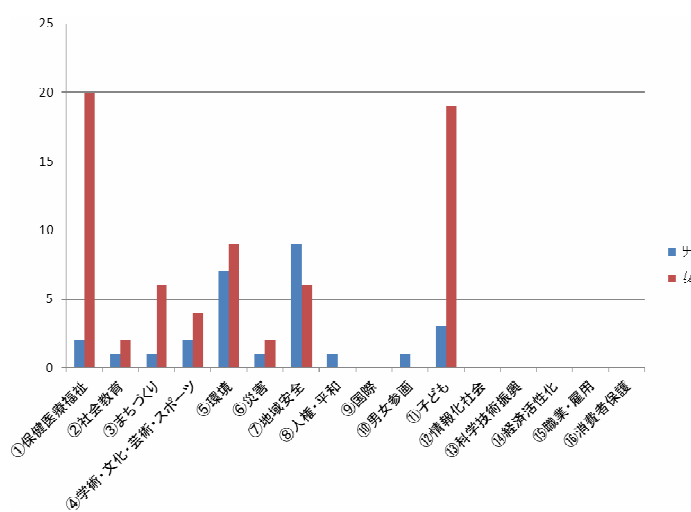


問11 ボランティア活動の種類について(設問数: 1)

今やっている、あるいは以前やっていた活動の種類について尋ねた。狙いは、どういった種類の活動が参加しやすいのかを知り、新しい人の「きっかけ」となりやすい活動は何かを考えることにある。ここでの仮説は、男女で分布が異なる。女性は「①保健医療福祉」「⑪子ども」、男性は「⑥環境保全」が多いのではないかと。女性は、自分の子育ての経験を活かしたボランティアをしたいのではないかと。また、ボランティア=福祉的なものというイメージで活動を探す人も多いと思う。

結果、「①保健医療福祉」と「⑪子ども」が圧倒的に多かった。女性が参加しやすいボランティアであるといえるだろう。

男女ともに票を集めたのは「⑤環境」と「⑦地域安全」である。「⑤



ボランティア(市民活動)に関する意識調査結果報告書

2012年11月27日

環境」が多いのは、自然が豊かな三浦市ならではなのかもしれない。社協に登録のある環境団体も4つある。しかし、社協の建物で活動をしている環境系ボランティア団体は1つしかない。現地で活動をする機会が多いからだと思うが、会議をする必要ができたときに場所を探すのは大変だろう。また、「⑦地域安全」のボランティアについても、もしも自治会館が使えない場合は、身近な場所を探すのは困難であることが考えられる。こういった活動については 現地+αの「α」の場所について、情報提供することが必要になるだろう。

2012年11月

発行／社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 事務局長 出口道夫

〒238-0102 神奈川県三浦市南下浦町菊名 1258-3 三浦市総合福祉センター

TEL 046-888-7347 FAX 046-889-1561